

2026 年度

一般選抜入学試験 問題集

国 語



共 栄 大 学

教育学部 / 国際経営学部

「大問Ⅰ」は著作権の関係でホームページには公開しておりません。

「大問Ⅰ」は著作権の関係でホームページには公開しておりません。

「大問Ⅰ」は著作権の関係で
ホームページには公開しておりません。

Ⅱ 次の文章を読み、設問に答えよ

ある大学での「論理学」の講義の際に、以下の要旨^aの文章を読ませた。

今、地球ではだんだん気温が上昇していくという温暖化現象が進んでいる。気温の上昇は生物に大きな影響を与えるし、南極の水を溶かして海の水位を一メートル以上も上げ、世界中の東京のような海岸都市を水没させてしまう。よって、至急、温暖化の問題に何らかの対策を立てなくては、地球生命の危機につながってしまうだろう。

そしてその後、

「では、あなたならどのような地球温暖化を防いでいくための手だてをしますか。」
という問に回答させ、意図的指名^bをして発表させていった。

すると、前半では以下のような回答があった。

- ・植林をしよう
 - ・割り箸を使わずマイ箸を持ち歩こう
 - ・紙は再利用しよう
 - ・公共交通機関を利用しよう
 - ・電気自動車等により換えよう
 - ・火力発電から風力や太陽光発電などに切り替えよう
- そして、後半では以下のような回答があった。

- ・クーラーの設定温度を上げよう
- ・冷蔵庫はすぐに閉めよう
- ・待機電力の消費を抑えるためにコンセントはまめに抜こう
- ・アルミ缶は再利用しよう
- ・原子力発電をやめて自然力を生かそう

前半の回答を聞いた後半の学生たちは首を傾げ、後半の回答を聞いた前半の学生たちも同様に首をかしげていた。そのように回答している学生たちに「変わり者」を見るかのような目を向けていた。どうしてこのようなことになったのであろうか。

それは、前半指名した学生たちと後半指名した学生たちの読んだ文章が異なっていたからである。より具体的に言えば、要旨は同じであるがその要旨を支える具体的事実や考察が異なる文章をそれぞれが読んだということである（以下の示すAとBがその文章である）。

A (前半指名された学生が読んだ文章)

今、地球ではだんだん気温が上昇していくという温暖化現象が進んでいる。気温の上昇は生物に大きな影響を与えるし、南極の水を溶かして海の水位を一米ートル以上も上げ、世界中の東京のような海岸都市を水没させてしまう。

その原因は大気中における二酸化炭素の割合の増加が考えられる。二酸化炭素は「熱を吸収しやすい」という性質がある。太陽の光は地面を暖め、暖められた地面は、熱を放射して冷えようとする。大気中の二酸化炭素の割合が高くなれば高くなるほど、この放射熱をたくさん大気中に吸収するということになる。つまり、大気中の温度が上がり気温が上昇することにつながる。

この二酸化炭素の割合が増加した理由は、大規模な森林伐採などによって植物を少なくしていったことが考えられる。植物は、私たち人間が生きていく上でなくてはならない酸素を作り出しているのはよく知られているが、その他にもでんぶんを作り出す過程でその原料として二酸化炭素を吸収して使用している。だから植物が少なくなるということは二酸化炭素が吸収できなくなることになり、その割合が増えることにつながる。

もう一つの理由は、産業革命以来、工業においてはもちろんのこと自動車や航空機の発達によって石油や石炭などの化石燃料を大量に使うようになってきたことが考えられる。特に、最近三十年ほどの間のその使用量は驚異的に増えてきている。化石燃料は燃焼すると二酸化炭素を発生させる。つまり大量の化石燃料の消費は二酸化炭素の大量の増加につながることに。

地球の温暖化はこのような原因で現在も確実に進んでいる。至急、温暖化の問題に何らかの対策を立てなくては、地球生命の危機につながってしまうだろう。

B (後半指名された学生が読んだ文章)

今、地球ではだんだん気温が上昇していくという温暖化現象が進んでいる。気温の上昇は生物に大きな影響を与えるし、南極の水を溶かして海の水位を一米ートル以上も上げ、世界中の東京のような海岸都市を水没させてしまう。

気温の上昇の原因は、生活の中でたくさんはき出される「廃熱」が集まったためと考えられる。電車に乗った時に「ふわっ」と熱を感じるののは電車がはき出している熱である。それから家でも冷蔵庫の裏側が熱くなっていることやクーラーの室外機の近くがすごく熱いのも生活の中ではき出される熱である。これらの生活の中で生じる熱がたくさん集まって気温を上昇させているのである。

特に、工業地帯や大都市がはき出す「廃熱」は「熱のよこれ」と呼ばれるほど大きなものである。例えばアルミ缶一個を作るのに二百ワットの電気を必要とする。二百ワットと言えば冷蔵庫を六時間付けっぱなしにした電気量である。アルミ缶一個を作るのでも、たくさん「廃熱」を吐き出し

ているのだ。また、原子力発電や火力発電では発生した熱のほぼ三分の一は電気になるが、残りの三分の二は「廃熱」となって捨てられている。これらの「廃熱」がたくさん集まって気温を上昇させているのである。

地球の温暖化はこのような原因で現在も確実に進んでいる。至急、温暖化の問題に何らかの対策を立てなくては、地球生命の危機につながってしまうだろう。

この A・B のような文章のことを「情報^d」と言う。これらの「情報」は、読み手に「地球温暖化の対策を自分なりに考えてもらいたい」そして「各自で工夫して温暖化を防いでいってもらいたい」などということを目的として表現されていない。

人間は具体的に引きずられる生き物である。そのような思考の癖があるとと言ってもよい。よって、温暖化の原因の具体として「森林伐採」が示されれば、その「森林伐採」を止めさせようと考えてしまうのが人間なのである。

つまり、「情報」とは読み手を意図的に操作するところに目的があるのである。例えば B は「温暖化を防ぐ」ことよりも「原子力反対運動に導く」ような操作をしたためにこのような表現をしたことになる。ひと昔前、大排気量のガソリン車が売れに売れていた自動車会社があったとする。テレビでは、この会社一社のスポンサー提供で「宇宙船地球号」という環境番組をやっていたという。果たして、A と B のどちらの「情報」を基に番組を作るであろうか。ここまで読めば簡単なことであろう。

^f すべての「情報」の魂は細部に宿るのである。このことを頭に入れておけば、操作されて踊らされることは少なくなるであろう。

(作問者作成文章)

6 傍線部 a「要旨」とあるが、本文中における意味として最も適当なものを、次の 1～4 のうちより一つ選べ。

- 1 全文を偏りなく均等に短くまとめた表現。
- 2 具体的事実を中心としてわかりやすくまとめた表現。
- 3 筆者の思いや考えを中心として短くまとめた表現。
- 4 「問と答え」という表現の原則で組み立てた表現。

7 傍線部 b「意図的指名」とあるが、なぜそのように指名する必要があるのか。最も適当なものを、次の 1～4 のうちより一つ選べ。

- 1 前半の回答と後半の回答との違いをより明確にしたいと考えたため。
- 2 異なる文章を読んだということを再確認させたいため。
- 3 「変わり者」であると思わせることは差別やいじめを生じさせるので、それを防ぐため。
- 4 誰を指名したかが明確となり、全員を漏れなく指名することができたため。

8 傍線部 c「公共交通機関を利用しよう」とあるが、本文の内容を踏まえると、なぜこのような回答ができたと考えられるか。最も適当なものを、次の 1～4 のうちより一つ選べ。

- 1 化石燃料の大量消費という具体的事実を引きずられたため。
- 2 自家用車よりも電車等の公共交通機関の方が諸経費が節約できるため。
- 3 「変わり者」であると思われたいようにするには一般的な意見を述べる必要があるため。
- 4 前に発言のあった「植林」などと異なるベクトルの意見を言い、全体の意見を深めるため。

9 傍線部 d「情報」とあるが、わざわざ括弧囲いとした理由として、最も適当なものを、次の 1～4 のうちより一つ選べ。

- 1 高等学校の科目である「情報」について想起してほしいと考えたため。
- 2 一般的に情報というと、SNS等で発信されたものと考えがちになるが、様々なメディアがあるということを再認識してもらうため。
- 3 筆者の特有の定義であり、一般的ではないということを示すため。
- 4 情報とは表現されたものの全てであるという広義の意を示すため。

10 傍線部 e「A と B のどちらの『情報』を基に番組を作るであろうか」という問いがあるが、本文の内容を踏まえるとその回答はどちらになるか。A の場合は 1 と、B の場合は 2 と解答せよ。

11 傍線部 f「すべての『情報』の魂は細部に宿る」とあるが、この意味として最も適当なものを、次の 1～4 のうちより一つ選べ。

- 1 情報は、全体を把握した上で短くまとめてみないと理解できないということ。
- 2 情報は、論理的に導かれた最も短い表現である主張に価値があるということ。
- 3 情報の魂とは、冒頭で立てられた問いに対する答えに込められているということ。
- 4 情報の魂とは、主張の根拠である判断や考察のさらに根拠となつて具体的な事実にあるということ。

「大問Ⅲ」は著作権の関係で
ホームページには公開しておりません。

「大問Ⅲ」は著作権の関係で

ホームページには公開しておりません。

Ⅳ 次の文章を読み、設問に答えよ。

皆さんは、小中高と国語を勉強してきたことでしょう。では、この国語とはどのような力をつける教科だったのでしょうか。このように改めて聞かれると明確に答えられないのではないのでしょうか。

国語とは、「母語が日本語である学習者」に対して「母語である日本語をよりよく使えるようにさせる」ということを目的とした教科なのです。国語の授業がなくても、「母語が日本語である学習者」は日常生活に困ることはありません。他者とコミュニケーションは取れますし、テレビやラジオを楽しむことができます。少し漢字を覚えれば、本や新聞も読めるようになります。しかし、国語の授業で学べば、より深くコミュニケーションができ、より楽しくテレビやラジオを楽しめ、より想像的かつ創造的に本や新聞が読めるようになるのです。この「よりよく」ということが大切なのです。

では、「よりよく」日本語を使っていくために学ぶべきものは何でしょうか。これは大きく二つのことに分かれます。一つ目は日本語の言葉そのものに対する知識です。日本語は大変複雑な言語です。ですから、漢字をはじめとした文字、場に応じて使われている敬語などの表現、婉曲的な言い回しや故事成語・慣用句などを知識として身に着けておく必要があるのです。二つ目はものの考え方、つまり思考の仕方に対する理解と習熟です。「母語が日本語である」者は日本語を用いて物事を考えしていきます。稚拙な日本語を用いる力からは稚拙な考えしか生まれないこととなります。どのように日本語を組み合わせていけば論理的に筋道を立てて考えていけるのか等を理解し、実際にそれを活用していけるようになることが大切なのです。

18
19
20

傍線部 a 「日本語の言葉そのものに対する知識」についての問題である。以下の①、②、③の文中のカタカナで示した二字熟語の波線部分と同じ漢字を用いるものを、それぞれ 1～4 のうちより一つ選べ（①は 18 に、②は 19 に、③は 20 に解答）。

① 大学のジューンキョウジュに採用された

1 血液がジュンカンする。

2 三月ゲジュンの卒業式。

3 法律をジュンシュする。

4 条約をヒジュンする。

② 下駄の鼻緒が切れるとはエンギが悪い

1 事故で電車の到着がチエンする。

2 親子はケツエン関係にある。

3 劇団のコウエンを見に行く。

4 私鉄エンセンの住宅地。

③ 日頃のシユショウな心掛けが功を奏した

1 演技にシユコウを凝らす。

2 この仕事にはトクシユな才能が必要だ。

3 シュシヤ選択する。

4 機械をホシュ点検する。

21

22

傍線部 b「ものの考え方、つまり思考の仕方」についての問題である。以下の①、②の文章を読んで、それぞれの問いに解答せよ(①は 21 に、②は 22 に解答)。

① A、B、C、D の四人で徒競走をした。その結果について四人が以下のように話していた。

A 「B には勝った。」

B 「D には負けた。」

C 「三位の人を抜かしてそのままゴールした。」

D 「一位にはなれなかった。」

二位になったのは誰であるか。次の 1～4 のうちより一つ選べ。

- 1 A 2 B 3 C 4 D

② 体長三十センチのイタチが、九メートル五十センチの壁を乗り越えなければならないと仮定する。イタチはこの壁を、日中は三メートル登れるが、夜は二メートル落ちてしまう。果たして最短何日でこの壁を乗り越えることができるであろうか。最も適当なものを、次の 1～4 のうちより一つ選べ。ただし、この壁の最も高い部分にイタチの体の先端が届けば乗り越えられるものとする。

- 1 七日目 2 八日目 3 九日目 4 十日目

【国語】

I		
問 題	解 答	配 点
著作権の関係で ホームページには 公開しておりません。		5
		5
		5
		5
		5

II		
問 題	解 答	配 点
6	③	5
7	①	5
8	①	5
9	③	5
10	②	5
11	④	5

III		
問 題	解 答	配 点
著作権の関係で ホームページには 公開しておりません。		3
		4
		4
		4
		4

IV		
問 題	解 答	配 点
18	④	4
19	②	4
20	②	4
21	④	5
22	②	5



共 栄 大 学

入試広報課

〒344-0051 埼玉県春日部市内牧 4158

電 話 048-755-2490 (直通)